

スペイン人画家と障害児

思い重ね 楽しく共作



知的・発達障害がある市内の小学生たちが二十六日、絵画展のために来日したスペインの油絵画家ミゲール・ペイドロさん(左)と一緒に絵を描いた。絵の具を手のひらに付けて色を塗り、著名な画家との共作を楽しんだ。(丸田稔之)

南区

制作した会場は今月開所した「アーチしばた児童心身発達センター」(南区柴田本通)。運営する企業組合カトレア・サービス(西区)の他の施設に通う十人余りの小学生が、縦一・五段、横二・五段の白い紙を青や黄色で染めた。服も手足も絵の具だらけ

ミゲール・ペイドロさん
◎と絵を仕上げる子どもたち
―南区柴田本通で

絵の具を手につけ 鮮やかに

の子どもたちに、ペイドロさんは「遊びながら、体で絵を描くのは素晴らしい。ピカソより上手なくらいだよ」と褒めた。作品は夕焼けや森を連想させ、自ら筆を持って太陽と木を描き加えた。

普段はやや内向的だという市立南養護学校(熱田区)の五年生佐藤楓真君(こ)も、友達と一緒に参加した。母智子さん(四)は「絵の具が混ざり、色が増える様子は頭に残る。いい刺激になったはず」と喜んだ。

作品は二十七日に名古屋港ポートビル四階(港区港町)で始まるチャリティー企画「現代国際巨匠絵画展」(中日新聞社後援)の会場に飾る。ペイドロさんも作品を出展し、二十九日までの期間中、場内を訪れる。収益の一部は、発達支援事業や東日本大震災で被災した障害児のために役立てる。入場無料。

問い合わせは、カトレア・サービス代表理事赤崎倫夫さんへ
電話090(6764)4602へ。